

事業名 温海地域支援ネットワーク推進事業

実施年度：R元～ R7年度予算額 580 千円

事業概要・目的

① 温海地域若者ネットワーク創出プロジェクト

目的：温海地域在住の若者のネットワーク創出と地域への愛着を醸成。さらに、関係人口の受け皿としての役割に寄与。

概要：他地域で地域づくりを実践する若者を講師として招聘し、温海地域の若者に向けたワークショップ研修を実施。

【全3回 定員10名】

1. 県外講師（宮崎県都農町在住）
2. 県内講師（村山市在住）
3. 温海地域・朝日地域若者交流会

② 温海地域関係人口拡大推進プロジェクト

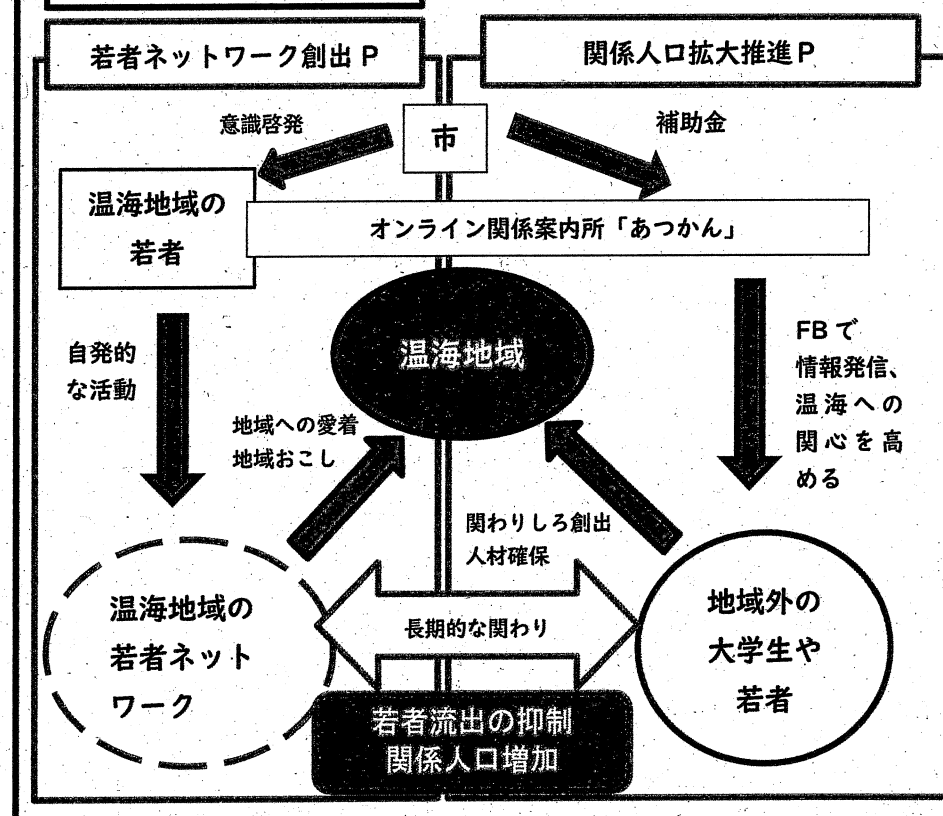
目的：関係人口の拡大により、温海地域に外部人材を呼び込むことで、人材不足を補いつつ地域の活性化に寄与。

概要：温海地域の若者と関係人口となる地域外の若者が協働し、温海地域の関係人口拡大に向けた「温海の関係人口を増やす会（略称「あつかん」）」を運営。その活動を支援。※補助率 10/10

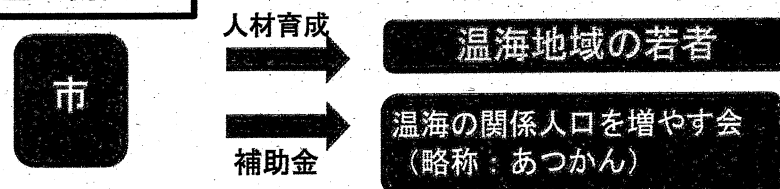
- ・ SNS（facebook グループ）活用による関わりしろ創出
- ・ 自主企画によるイベント開催 年2回
- ・ 地域行事への地域内外からの参加者呼び込み

- ◆目標：・「あつかん」の運営に関わる若者の人数 6人
・ 関係案内所を通じて温海地域と交流する若者 80名/年

事業イメージ・具体例



資金の流れ



期待される効果

- ・ 若者のつながりの深化により、人口流出の抑制が期待される。
- ・ 関係人口の増加（外部人材の取込）により、地域行事の人材確保など、地域が活性化する。
- ・ 温海地域と外の若者同士のつながりが活性化し、長期的な関係人口の獲得につながる。

事業の目的

温海地域若者ネットワーク創出プロジェクト：温海地域在住の若者のネットワーク創出と地域への愛着を醸成。さらに、関係人口の受け皿としての役割に寄与。

温海地域関係人口拡大推進プロジェクト：関係人口の拡大により、温海地域に外部人材を呼び込むことで、人材不足を補いつつ地域の活性化に寄与。

令和6年度取組内容・状況

温海地域若者ネットワーク創出プロジェクト

- (1)温海地域巡りを実施予定。
⇒温海地域の若者を対象に普段は行かない秘境的な地域を巡るなど若者の交流を促しつつ、温海地域への愛着の醸成を図る。
- (2)11月に秋田県五城目町の「シェアビレッジ町村」へ先進地視察。
- (3)地域内の若者グループと定期的にミーティングを実施。

温海地域関係人口拡大推進プロジェクト

- (1)温海地域の若者と首都圏等の若者で構成する団体「温海の関係人口を増やす会（略称：あつかん）」を立ち上げ、9月から活動を開始。
- (2)「関係案内所」としてFBのグループページを立ち上げ、広報活動を開始。
- (3)2月に自主企画のイベント開催予定。

上記活動を支援。

決算額：236千円

事業評価・課題

【評価】

- ◎あつかんの活動により、10月のお湯興祭に地域外から12人の若者が来訪。2月に自主企画のイベント実施を予定しており、地域外の若者の来訪者は増加していくものと捉えてる。

【課題】

- ◎若者のネットワークの形成には至っていない。
- ◎若者が主導してワークショップや研修会を進めることを見込んでいたが、難しい現状。もう少しばらく市が「ひっぱり」型で、若者の意識啓発の機会を提供する必要がある。
- ◎関係案内所が地域行事の活性化に繋がっているが、団体の認知度を高める必要がある。

令和7年度事業内容

温海地域若者ネットワーク創出プロジェクト

- (1)他地域で地域づくりを実践する若者を講師として招聘し、温海地域の若者に向けた研修会、ワークショップ及び交流会を実施。
【全3回 定員10名】
- ①県外講師（宮崎県都農町在住）
- ②県内講師（村山市在住）⇒ 8/9実施
- ③温海地域・朝日地域若者交流会

温海地域関係人口拡大推進プロジェクト

- (1)温海地域の若者と関係人口となる地域外の若者が協働し、温海地域の関係人口拡大に向けて立ち上げた「温海の関係人口を増やす会(略称：あつかん)」の活動を支援。

※補助率10/10

- ①SNS（facebookグループ）活用による関わりしる創出
- ②自主企画によるイベント開催 年2回
- ③地域行事への地域内外からの参加者呼び込み

予算額：580千円

将来の方向性

◎デジ田交付金（R6～R8）を活用し事業を展開。その後は、基本的に自立自主運営を想定。

◎目指す将来像

- ・地域外の若者 ⇒ 温海のファン増加 ⇒ 温海地域への関わりしる創出 ⇒ 関係人口の増加（人材不足解消）
- ・地域内の若者 ⇒ 地域おこし活動 ⇒ 郷土愛の醸成 ⇒ 若者流出の抑制

→ 地域内外の若者のつながりの活性化
長期的な関係人口の獲得

温海地域家族まるごと移住体験事業

実施年度：R5～ R7年度予算額 5,314 千円

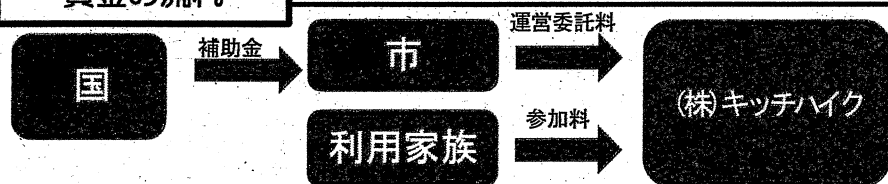
事業概要・目的

- ・「温海地域の豊かな自然」のアピールだけでは、他地域との差別化が図られないことから、実際に温海での生活を体験していただく機会（場）を作り出す必要がある。
- ・既に全国 54 ヶ所で保育園留学の実績があり、子どもの教育に熱心で、地方での生活に関心の高い多くの家族を顧客に持つ、株式会社 KitchHike と提携し、保育園留学を温海地域で実施する。
- ・保育園留学の受け入れにより、温海地域での暮らし体験を通して、保育園留学の再利用や観光による再訪、ふるさと納税など、温海地域との繋がりを継続し、長期的な関係人口の創出を目指す。
- ・令和 5 年度受入実績は 2 家族。令和 6 年度受入実績は 14 家族と目標数値を達成している。

事業スケジュール

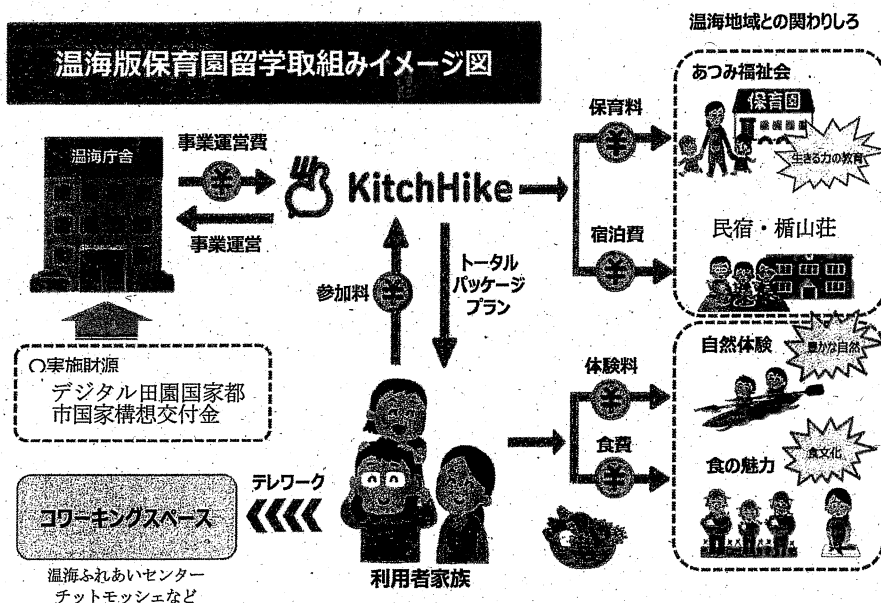
- 4 月 契約締結
- 5 月から受入開始 → 目標：10 家族または 180 人泊
・毎月事業者との定例 M T G を実施
- 6 月～10 月受入強化期間（海と触れられる期間）
- 2 月末までの受入

資金の流れ



事業イメージ・具体例

温海版保育園留学取組みイメージ図



期待される効果

- ・実際に温海に滞在していただくことで、豊かな自然環境や自然体験、多彩な食文化を通して、関係人口が拡大される。
- ・リピートでの再訪やふるさと納税等により、長期的な関係人口の獲得や鶴岡市への二地域居住、移住が期待される。
- ・関係人口の拡大により、地域経済への効果（1 家族約 17 万円）が期待できる。
- ・子どもが温海地域で保育園留学を体験することで、生きる力を育む教育（SEL：Social & Emotional Learning）に取り組む温海地域の認知度が高まる。（PR 出来る。）

事業の目的

- ◎保育園留学の受け入れにより、温海地域での暮らし体験を通して、保育園留学の再利用や観光による再訪、ふるさと納税など、温海地域との繋がりを継続し、長期的な関係人口の創出を目指す。

令和6年度取組内容・状況

(1)受入れ環境

- ①保育園…鼠ヶ関保育園
- ②宿泊…民宿丸武、楯山荘
- ③リモートワーク…温海ふれあいセンター等

(2)月別の受入れ実績

6月	大人1、子ども2（東京都）	民宿丸武
	大人2、子ども1（千葉県）	民宿丸武
7月	大人1、子ども3（長野県）	民宿丸武
	大人2、子ども2（東京都）	民宿丸武
	大人1、子ども1（神奈川県）	楯山荘
8月	大人2、子ども2（栃木県）	民宿丸武
10月	大人1、子ども2（愛知県）	楯山荘
	大人1、子ども2（神奈川県）	民宿丸武
11月	大人2、子ども1（東京都）	楯山荘

※R5利用のリピーター

大人2、子ども2（東京都） 民宿丸武

※R6.7月利用のリピーター

(予約) 1月 1家族、2月 2家族

◎楯山荘宿泊の際、地元住民と交流会を実施

◎毎月、受託事業者、保育園、あつみ福祉会と定例ミーティングを実施

決算額：6,182千円

事業評価・課題

【評価】

- ◎令和6年度の目標「10家族受入れ」又は「180人泊」に対し、受入実績は14家族となり、目標を達成することができた。
- ◎利用家族からは自然豊かな温海地域の保育に好評を得ている。
- ◎リピーターが3家族（内1家族はプライベート）と、温海地域のファンの増加に寄与している。
- ◎留学先納税（ふるさと納税）で3家族が寄附しており、本市のふるさと納税にも貢献している。
- ◎「生きる力を育む教育」の推進においても、相乗効果が認められると評価している。
- (地域の評価)
- ◎地域外の子どもから地元園児職員ともに刺激を受け成長する姿が見られるとの意見があり、地域振興懇談会でも高い評価を得ている。

【課題】

- ◎本取組みの情報発信が十分ではないため、強化する必要がある。（広報での紹介等）
- ◎宿泊施設の関係で、断ったケースもあることから、宿泊施設の開拓が課題。

令和7年度事業内容

- ◎受け入れ期間は5月からとし、1家族1～2週間、年間を2月まで受け入れるものとする。
- ◎宿泊施設の新規開拓
【令和7年度見込み】
 - ・楯山荘
 - ・民宿丸武
 - ・たちばなや（新規）7月下旬から
- ◎スケジュール
 - ・4月 契約締結
 - ・5月から受入開始
→ 目標：10家族又は180人泊
 - ・受託事業者等との定例MTGを毎月実施
 - ・6月～10月受入強化期間（海と触れられる期間）
 - ・2月末までの受入
- ◎現時点での予約状況（8月現在）
 - 予約数…8家族
 - 受入実績…4家族（東京都、香港、埼玉県、大阪府）
 - ※R6度と比較し、楯山荘への滞在と2週間の滞在が増加傾向にある。

予算額：5,314千円

将来の方向性

- ◎デジ田交付金（R6～R8）を活用しているが、今後は、同様の事業を実施している庄内町や西川町とも情報交換しながら、より効果的な事業展開や財源確保について検討。
- ◎関係部署と協議しながら、全市展開を検討。

温海地域教育環境充実事業

実施年度：R5～R8 R7年度予算額 5,200 千円

事業概要・目的

○地域おこし協力隊

- ・令和5年5月1日着任
- ・温海生涯学習振興会に配置（拠点：温海ふれあいセンター）

○ミッション

1 「あつみ地域未来塾」での受講生募集から講師の確保、実施科目等のカリキュラムの作成、講師の調整、当日の運営などのコーディネート業務等

2 「生きる力を育む・非認知能力を伸ばす教育」を SEL 指導者の他、保育園、学校とも連携し、「非認知能力を高める教育」を温海地域小中学校へ展開し、「生きる力を育む教育」プロジェクトチームの一員として、研修会の開催等地域に定着させる活動の補助業務。

3 温海生涯学習振興会で行う生涯学習講座や各種講座のほか、鶴岡市教育委員会や温海地域小中学校、青少年育成推進員、生涯学習推進員等と連携し、地域の学習ニーズに応えられる生涯学習事業の企画・運営業務。

資金の流れ



事業イメージ・具体例

令和7年度の展開（ミッションの充実に加え…）

多世代交流フリースペースの開放… 未来塾終了後、夏休み、平日等

- ・子どもたちの自主性を促す
- ・興味分野の探求を促す
- ・学習に限らず子どもたちの居場所となり、地域との交流ができる拠点作りを試行的に既存施設で実施

生涯学習活動の充実

- ・各地区での出前講座の実施
- ・ふれセンサポーターの発掘
- ・温海ふれあいセンターやフリースペース等集いやすい場づくり

若者の活性化とネットワークづくりにつなげたい！

【温海地域支援ネットワーク推進事業】～事業連携～

首都圏在住若者
※東大 FS 参加メンバー等
（関係人口）

交流促進に参画

地元若者の
ネットワーク

期待される効果

- あつみ地域未来塾の充実とより効果的な事業展開の仕組みづくりが期待できる
- 他事業との連携による若者世代の活性化 = 定住促進

事業の目的

- ・「教育環境の充実」を推進することで、子育て世代から支持される地域を目指し、移住定住の促進につなげる。
（教育環境の充実に資する取組みを進めるにあたっては、総務省で推進している「地域おこし協力隊制度」を活用して取り組む。）

令和6年度取組内容・状況

地域おこし協力隊員

- ・令和5年5月1日着任（任期は令和8年4月）
- ・温海生涯学習振興会に配置
（拠点：温海ふれあいセンター）

地域おこし協力隊員のミッション

- (1)「あつみ地域未来塾」コーディネート
- (2)「生きる力を育む教育」推進のサポート
- (3)温海生涯学習振興会が実施する生涯学習事業の企画・運営

令和6年度取組の特筆事項

- ◎未来塾終了後等における自習室開放
 - ◎公民館等を活用した「自習カフェ」を開催
 - ・実施日数：9日（4会場）
 - ・延べ参加者：40名
 - ・延べサポートスタッフ：17名
（大学生等の協力）
- ※県の補助事業を独自に活用

決算額：5,054千円

事業評価・課題

【評価】

- ◎あつみ地域未来塾の拡充を図ったことにより、受講率が向上した。
- ◎自習カフェ開催により、より広く（小学生等）学習機会を提供できた。
- ◎また、温海地域在住の教員退職者や温海地域出身大学生からサポーターとして協力を得ながら、地域の方と小中学生との交流に寄与。
- ◎小中（高）学生の居場所づくりや多世代交流の場づくりを意識しており、地域内の交流促進の面で高く評価。
（地域の評価）
- ◎未来塾の拡充や自習室開放が展開されていることは認識されており、地域振興懇談会でも高く評価されている。

【課題】

- ◎「自習カフェ」については、自治会との連携が不足しているため、連携を強化する必要がある。

令和7年度事業内容

◎ミッションに加え…

R6に引続き…

- ・自習室開放及び各地区での自習カフェの開催
- ・ふれセンサポーターの発掘
- ・温海ふれあいセンターやフリースペース等集まりやすい場づくり
- ・他事業の「地域内外の若者のつながりづくり」に参画



定住に向け…多世代交流フリースペースの開放

- ・子どもたちの自主性を促す
- ・興味分野の探求を促す
- ・学習に限らず子どもたちの居場所となり、地域との交流ができる拠点作りを試行的に既存施設で実施し、フリースペースの活用につなげていく

起業に向け…キャリアコンサルタント資格取得

予算額：5,200千円

将来の方向性

- ◎任期終了後も、温海地域の教育環境充実に向けた取組に参画（本人もその意向）
- ◎地域おこし協力隊員の定住と地域内での起業（しごと）を支援
※協力隊員がイメージしている「多世代交流フリースペース」については、起業化補助金を活用してハード整備し、必要に応じ、スペースを活用したソフト事業にかかる経費をR8予算に盛り込みたい。）

温海地域生きる力を育む教育推進事業

実施年度：R2～ R7年度予算額 1,277 千円

事業概要・目的

【目的】 子育て世代が中山間地域（過疎地域）の条件不利地から市街地への転居が続く状況にあり、将来の地域を担う人材の流れは大きな課題である。若い世代の定住化を図り、優れた人材を育成・確保するために子育て・教育環境を充実させることに加え、温海地域の教育に魅力を感じる方々の移住に発展させる。

【概要】 若者が安心して暮らし続けられる基盤としての子育て・教育環境を構築するため、文部科学省の新学習指導要領にも定められている「生きる力」「非認知能力の教育」を温海地域の特色ある教育方針とし、保育園児から小学校児童、中学校生徒まで一貫した次世代教育に継続して取り組む。

- ・SEL教育（社会的能力と気持ちに関わる能力を伸ばす学び）の専門家とアドバイザー契約を結び、保育園及び学校に派遣し、保育士・教職員等に対する研修・指導・助言を行い、非認知能力を高め、生きる力を育むための教育力向上を図る。
- ・特色ある教育の実践により、関係人口の構築を図るとともに、子育て世代の定住並びにUターン・移住を狙った教育環境の整備を行う。

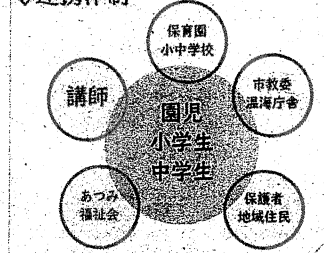
【今後の方向性】 櫛引東小(R5)、豊浦小(R6)でもSEL研修を実施。小中学校教職員は異動があることから、SEL教育の効果を引き出すために、全市展開の検討を開始。

事業イメージ・具体例

「子育てするなら温海で」と選ばれる地域を目指して

SEL（ソーシャル・エモショナル・ラーニング）を取り入れた真に生きる教育に地域全体で取り組む

連携体制



※庁舎各課と学校教育課指導主事が連携し

プロジェクトチームを結成

- 情報・課題の共有、実施事業の検討
- 地域住民、保護者の理解促進
- 先進地としての情報発信

保護者に選ばれる
教育環境の構築

将来的な移
住定住へ

【小中学校実践】

- ・総合学習を核とした授業でのSEL実践（R5～）
- ・小中学校訪問指導（R6～）

【小中学校】

- ・校長、教頭、教務研修（R3）
- ・総合学習担当ワークショップ（R3）
- ・学校別研修（R4～）
- ・SEL特別研修（R7）

【地域住民】

- ・地域住民、保護者研修（R6～）

【保育園】

- ・保育関係職員研修
- ・各園訪問指導（R3～）
- ・年長児交流事業（R3～）

特色ある保育

保育園留学受入家族
の子ども、保護者が高
く評価

資金の流れ

市

業務委託

アドバイザー

期待される効果

- 子育て世代に支持される教育環境を整備し、非認知能力、生きる力を育む質の高い教育に取り組むことで、子育て世代の流出抑制につながる。
- 特色ある教育の実践として地域資源を活用することにより、地域の魅力・価値が上昇していくことで、地域の活性化が図られる。
- 特色ある教育の情報発信により、温海地域への交流人口・関係人口が増加し、定住人口・移住者の増加へ結びつけることができる。

事業の目的

子育て世代が中山間地域(過疎地域)の条件不利地から市街地への転居が続く状況にあり、将来の地域を担う人材の流れは大きな課題である。若い世代の定住化を図り、優れた人材を育成・確保するために子育て・教育環境を充実させることに加え、温海地域の教育に魅力を感じる方々の移住に発展させる。

令和6年度取組内容・状況

○SELを取り入れた「生きる力を育む教育」を温海地域の教育方針とし、保育園児から小中学生まで一貫しての次世代教育に取組んだ。

＊SEL (Social Emotional Learning) : 社会的能力と気持ちに関わる能力を高める教育と呼ばれ、教育現場や家庭で行われるEQ (こころの知能指数) 教育

○SEL教育アドバイザーとして、(株)THdesign (代表 三森朋宏) に業務委託をおこない、指導や研修等を行った。

- ・保育園・小中学校訪問指導、職員研修
- ・保育園交流保育への指導助言
- ・地域住民向け研修会
- ・オンライン配信一般向けセミナー



保育園、小学校1・2年生で行っているEQチェックイン：朝や帰りに、今の気持ちを表情カードの中から選び、なぜ、それを選んだのかを話す。

決算額：1,151千円

事業評価・課題

○事業評価

・「生きる力を育む教育」は、短期間では成果が見えずらく、数値化も難しいものの、保育園においては、子どもたちの変容が見えはじめてきた。保育士のコメント：「気持ちの切り替えがスムーズになってきた」「自分の思いを言葉で伝えることができるようになってきた」「ケンカをしても自分たちで解決できるようになった」

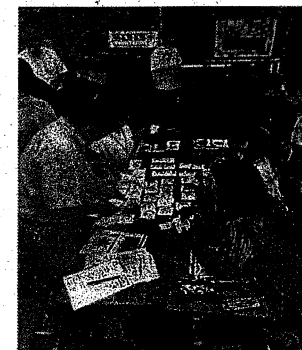
○課題

・小中学校では、人事異動の関係上、保育園に比べ、継続性が低くなり、授業や生徒指導においての実践が難しい側面がある。
・本取組みを広く周知するため、地域住民対象の研修会、オンラインセミナー、PTA研修会を開催するとともに、市及びあつみ福祉会のHPで情報発信を行っているが十分とはいえず、SNSでの情報発信も含め、効果的な情報発信方法を模索している。

令和7年度事業内容

○SEL教育アドバイザーとして、(株)THdesign (代表 三森朋宏) に業務委託をおこない、指導や研修等を行う。

- ・保育園・小中学校訪問指導、職員研修
- ・保育園交流保育への指導助言
- ・小中学校合同研修会
- ・鼠ヶ関小学校PTA研修会
- ・保育士教師対象のEQ基礎講座
- ・温海庁舎職員研修



小学校職員研修の様子
表情カードを使ってグループワーク

予算額：1,277千円

将来の方向性

小中学校教職員は人事異動があることから、SEL教育の効果を持続させるために、教育委員会の理解を得ながら全市展開をしていきたい。

温海地域養蚕環境整備事業

実施年度：R3～R7 R7年度予算額783千円

事業概要・目的

“サムライゆかりのシルク” STORY

『今も養蚕から絹織物まで一貫工程が残る国内唯一の地』

経 過

平成 29 年 4 月に「サムライゆかりのシルク」として日本遺産に認定された本市の養蚕を再興し、安定的な存続を図るため、平成 30 年度に、農政課が所管となり、旧福栄小学校校舎を活用して養蚕の取組みを開始した。

これにより、飼育に必要な桑園、設備及び管理体制は整備されたが、当初目的としていた産業(コミュニティビジネス)としての養蚕は、養蚕業の市場状況や生産体制の規模などから困難であると判断した。

そのため、令和 3 年度から、「産業振興」としての養蚕から「生きがいがづくり・地域振興」としての養蚕にシフトチェンジし、担当部署も温海庁舎総務企画課に移管され、事業を継続している。

これまでの取組

- 稚蚕飼育（県内の養蚕農家に販売、松ヶ岡産業に提供）
- 繭生産（養蚕）→ 鶴岡シルク㈱に販売
R4=24.4 kg
R5=27.0 kg
R6= — 蚕の病気のため出荷できず
- 漢方薬の原料として蛹を出荷（令和 3～5 年度）

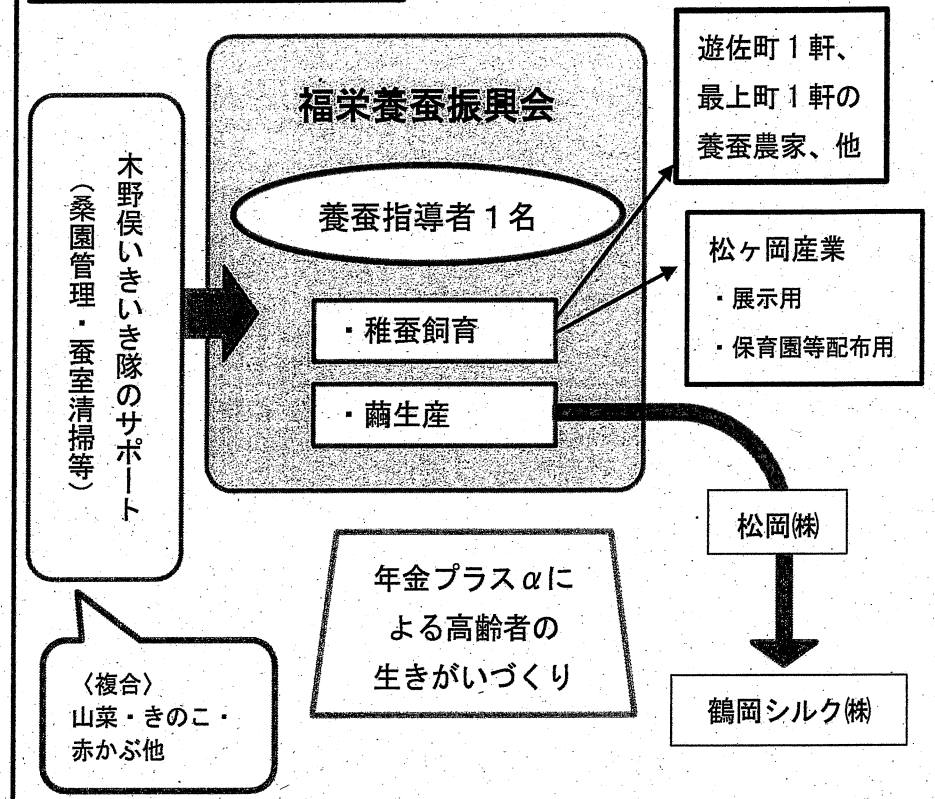
資金の流れ

市

H30～R2 委託
R3～R7 補助

福栄養蚕振興会

事業イメージ



期待される効果

- 「鶴岡シルクタウンプロジェクト」における一貫工程の土台の維持
- 年金プラスαの高齢者の生きがいがづくりに貢献
- 共同作業による地域コミュニティの維持
- 桑園設置による耕作放棄地の解消
- 廃校舎の利活用

事業の目的

絹織物の一貫工程のスタートとなる養蚕部門の振興を図ることにより、「シルクタウンプロジェクト」の推進に資する。

令和6年度取組内容・状況

- 事業実施団体
福栄養蚕振興会
- 市の関わり
団体の経営安定のために補助金を支出し支援した。
- 実施場所
旧福栄小学校校舎
- 事業内容
 - ・稚蚕飼育：蚕の孵化から1週間の初期段階を飼育した。4期に分けて行った。
蚕は、遊佐町や最上町等の養蚕農家に販売したほか、松ケ岡産業に、保育園・小学校への飼育体験キット配布や松ケ岡開墾場での展示飼育用として提供した。
 - ・繭の出荷：蚕が病気になってしまい、出荷できなかった。

決算額：783千円

事業評価・課題

- 事業評価
 - ・「鶴岡シルクタウンプロジェクト」における絹織物一貫工程の土台を維持してきた。
 - ・桑園管理等のサポートをしてきた木野俣いきいき隊の活動は、会員の年金プラスαの生きがいづくりとなったほか、共同作業による地域コミュニティの維持を図ることができた。
 - ・桑園整備による耕作放棄地の解消に役立った。
 - ・廃校舎の利活用を図ることができた。
- 課題
 - ・国産絹の需要が減り続け、絹織物産業の将来性が見えなくなっている。これまで県内産の繭を買取ってきた京都着物メーカーが、R7産繭をもって買取りを辞めることになり、また、松岡俵（製糸工場）では、受注が少なく、少量の製糸は採算が合わないことから、機械の稼働を見合わせる動きもある。養蚕をして繭を作っても、買ってくれるところなくなるなど、養蚕事業の継続が困難となっている。

令和7年度事業内容

- 事業実施団体
福栄養蚕振興会
- 市の関わり
団体の経営安定のために補助金を支出し支援する。
- 実施場所
旧福栄小学校校舎
- 事業内容
 - ・稚蚕飼育：蚕の孵化から1週間の初期段階を飼育する。4期に分けて行う。
蚕は、遊佐町や最上町等の養蚕農家に販売するほか、松ケ岡産業に、保育園・小学校への飼育体験キット配布や松ケ岡開墾場での展示飼育用として提供する。
 - ・繭の出荷：これまで販売してきた鶴岡シルク俵が購入しないことになったため、養蚕は行わない。

予算額：783千円

将来の方向性

福栄養蚕振興会より、今後、経営を継続していくことが困難であると相談を受けている。他に養蚕を行ってくれるところがないか探し、絹織物の一貫工程の維持に努めたい。

つながり ささえあう 温海地域の力 ～地域共生社会の実現～
温海地域支え合い訪問活動事業

実施年度：R7～R9 R7年度予算額 80千円

事業概要・目的

◇現状（令和6年3月31日現在）

- 1 温海地域の人口 : 6100人 対前年比 △235人
- 2 高齢化率 : 50.2% (65歳以上 3085人)
- 3 老ク等の組織数 : 9団体 394人 (老ク未加入数: 2691人)

○目的

温海地域で暮らす高齢者等が集うことによって、フレイル予防、引きこもり防止を図り、交流・会話する機会をつくることで、互いの困りごとの共有や安否確認を図るとともに、住民同士の助け合いの意識を高める。

○概要

- 1 老人クラブ等が組織化していない集落を対象に年3回程度のお茶のみサロンを実施。全10集落(R7 4集落、安土・鍋倉・小名部・越沢、R8 3集落、一霞・湯之里・小菅野代、R9 3集落、釜谷坂・小岩川・峠ノ山)
- 2 フレイル予防(100歳体操の普及)、買い物バスや地域外研修などの外出機会の創出。

事業イメージ・具体例（内容）

高齢者の集いの場などが確立されていない集落に対して、地区担当職員等が分野を横断して取り組み、自治会や民生児童委員協力のもと高齢者に声がけを行い、年間3回程度テーマを掲げ集いの場を創出する。

○具体的な事業の展開

・お茶のみサロンの開催 → 各集落の公民館等を活用し「場」を設定する

・フレイル予防の体験 → いきいき百歳体操などの体験を通じ健康に対する意識を高め、専任講師による健康講話、口腔ケア、栄養士による食生活改善の指導などを行う

・地域外研修活動 → 買い物支援バスや福祉バス等を利用した外出や、老ク主催イベントへ参加する

○支援終了後の自立活動に向けた取り組み

・集落支援員と地区担当職員が庁舎内で連携し、フレイル予防における講師の派遣や独自の活動に対してアドバイスなどを行う。

事業の流れ

◇予算 : 200千円（未来事業を活用）

◇実施主体 : 直営（温海庁舎市民福祉課）

◇事業期間 : 令和7年度～9年度（3ヶ年）

◇協力 : 自治会へ集落内の高齢者等への声がけを依頼し、小規模でも参加者を集め開催する

◇庁内連携 : 集落支援員や庁舎地区担当職員と連携し、事業終了後も自主運営できる組織体制を確立する。

期待される効果（到達点）

これまでは、組織として活動出来ていなかった地域でも、お互いの仲間づくりを意識することで、生活上の悩みや各種制度の理解などを深めることが可能となり、日々の予定ができることによって外出機会が増え、安否確認はもとより、自分自身の健康寿命の延伸にもつながることが期待される。（地域支え合い活動グループの発足）

事業名：温海地域支え合い訪問活動事業

新規

事業の目的

温海地域で暮らす高齢者等が集うことによって、フレイル予防、ひきこもり防止を図り、交流・会話する機会をつくることで、互いの困りごとの共有や安否確認を図るとともに、住民同士の助け合いの意識を高める。

背景・現状

- ・令和6年3月31日現在の温海地域の人口が6,100人に対し高齢化率が50.2%となっている。
- ・温海地域27集落中、老人クラブ等が組織化されているのは9集落と少なくなっている。
- ・老人クラブ等が組織化されていない集落では、住民同士のつながり等の希薄化が懸念される。

課題

高齢者等の集いの場などが確立されていない集落に対して、自治会や民生児童委員協力のもと高齢者やひきこもり、外出の機会が少ない人に声掛けをする等お互いの見守り活動を行うことが必要である。

令和7年度事業内容

高齢者等の集いの場などが確立されていない集落に対して、自治会や民生児童委員協力のもと高齢者等に声かけを行い、年間3回程度テーマを掲げ集いの場を創出する。

- ①お茶のみサロンの開催
各集落の公民館等を活用し、場を設定する
- ②フレイル予防の体験
いきいき百歳体操や健康教室の開催
- ③地域外研修活動
買い物支援バスなどを利用し外出の機会を創出

全10集落（3カ年事業）
令和7年度 安土・鍋倉・小名部・越沢
令和8年度 一霞・湯之里・小菅野代
令和9年度 釜谷坂・小岩川・峠ノ山
※3カ年で事業終了後、その時々々の情勢を把握し、他集落での事業実施を検討する。

予算額：80千円

将来の方向性

地域支え合い訪問活動を行うことで、集いの場がお互いの安否確認や健康寿命の延伸に重要であることを再認識してもらい、現在、組織としての活動が皆無でもサロンの定期開催や仲良しクラブなどが立ち上げられることを目標とする。

道の駅あつみ商品開発プラットフォーム事業

実施年度：R7 R7年度予算額 500千円

事業概要・目的

○目的

現道の駅が培ってきたネットワークを生かし、令和9年4月開業予定で事業進捗中の新道の駅「あつみ」で地元産食材を活用した魅力的な商品を展開するため、地域の農林漁業者、関連する加工事業者、既存道の駅が相互連携した6次産業化組織を形成し、商品開発・試作・テスト販売を展開する。

事業イメージ・具体例

○事業実施期間 R7年度

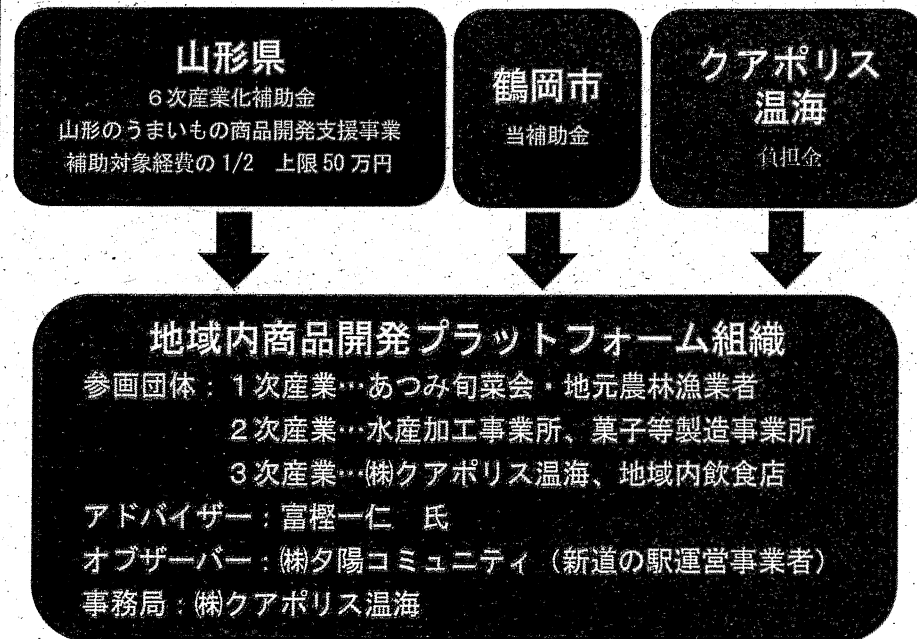
○事業内容

- ①地域内の商品開発プラットフォーム組織の設立
- ②商品開発アドバイザーの委嘱 富樫一仁氏
鼠ヶ関出身 北月山荘「モン・ヴィペール」調理担当
地域産食材を活用した飲食メニュー・農林水産加工品等の開発
- ③既存道の駅取引事業者による試作品製造
- ④既存道の駅でのテスト販売・モニタリング

○事業費総額 1,500,000円

【収入】①県補助金（6次産業化補助金活用）	500,000円
②市補助金	500,000円
③㈱クアポリス温海負担金	500,000円
【支出】①商品開発・試作 @300,000円×3品目	=900,000円
②試作品製造・材料費 @100,000円×3品目	=300,000円
③テスト販売・モニタリング	300,000円

資金の流れ



期待される効果

現道の駅が持つ関係者等との繋がりをフルに活用した地域内プラットフォームを官民連携して構築して展開することにより、新道の駅運営事業者に対する地域財産の引き継ぎや地域と連携した継続した取り組みが行われる。

新道の駅の施設テーマ「日本海の自然と食のテーマパーク」に相応しい魅力ある商品の開発・造成を行うことにより、より多くの集客効果と地元農林水産物の需要拡大・地域農林水産業の活性化が図られる

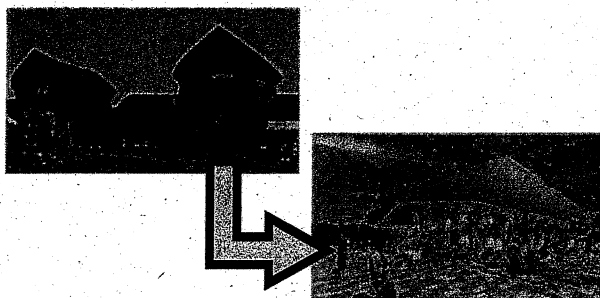
事業の目的

現道の駅が培ってきたネットワークを生かし、新道の駅「あつみ」で地元産食材を活用した魅力的な商品を展開するため、地域の農林漁業者、関連する加工事業者、既存道の駅等が相互連携した6次産業化組織を形成し、商品開発・試作・テスト販売を実施する。

背景・現状

令和9年4月開業予定で事業進捗中の新道の駅「あつみ」は、サービス水準を示す要求水準書において、既存道の駅が培ってきたネットワーク、地元生産者及び取引業者等とのつながりを様々な形で引き継ぎ、更に発展していくような積極的な提案を行う旨明示している。

新道の駅の運営事業者である(株)夕陽コミュニティは令和6年5月に設立後、温海・鼠ヶ関地域との関係を密にすべく活動を展開しているが、現状において進捗度は低いものとなっている。



課題

現道の駅を運営する(株)クアポリス温海は新道の駅移転オープンを以て解散することが既に決定しており、これまでの30余年の経営によって培ったノウハウやネットワークなどを新道の駅運営事業者に余すことなく引き継ぐことが必要である。

(株)夕陽コミュニティでは令和8年度以降、プライベートブランド商品(PB商品)の開発を視野に入れているが、これとは別に、地域の財産である「つながり」「食材」を活かした看板商品を造成するための組織化・商品開発を早期に行うことが必要である。



令和7年度事業内容

- ①地域内の商品開発プラットフォーム組織の設立
地域内農林水産業従事者、水産加工施設
しゃりん取引先菓子等製造事業所
クアポリス温海、地域内飲食店
 - ②商品開発アドバイザーの委嘱
委嘱予定者：富樫一仁氏（鼠ヶ関出身）
温海・鶴岡産を中心とした地域産食材を活用した
飲食メニュー・農林水産物加工品等の新商品開発
 - ③既存道の駅取引事業者による試作品の製造
 - ④既存道の駅でのテスト販売・モニタリング
- 費用内訳
- | | |
|---------------|---------|
| 事業費総額 | 1,500千円 |
| 【収入】県補助金 | 500千円 |
| 市補助金 | 500千円 |
| (株)クアポリス温海負担金 | 500千円 |
| 【支出】①商品開発・試作 | |
| @300千円×3品目 | = 900千円 |
| ②試作品製造・材料費 | |
| @100千円×3品目 | = 300千円 |
| ③テスト販売・モニタリング | 300千円 |

予算額：500千円

将来の方向性

現道の駅が持つ関係者等との繋がりをフルに活用した地域内プラットフォームを官民連携して構築して展開することにより、新道の駅運営事業者に対する地域財産の引き継ぎや持続した取り組みが行われる。

新道の駅の施設テーマ「日本海の自然と食のテーマパーク」に相応しい魅力ある商品の開発・造成を行うことにより、より多くの集客効果と地元農林水産物の需要拡大・地域農林水産業の活性化が図られる。

本事業は令和7年度単年で展開し、その成果は(株)夕陽コミュニティに引継ぐことで、地域と連携しながら継続した商品展開が図られる。

温海地域水産物販売実証実験事業

実施年度：R5～R7 R7年度予算額 540 千円

事業概要・目的

本市では、令和4年10月に公表した「道の駅あつみ移転整備事業 要求水準書（素案）」において『鼠ヶ関・温海・鶴岡の“旬”をつないで、手軽に、いつ来てもワクワクする道の駅』を施設テーマに掲げ、飲食・物販・イベント等において鮮魚を取り扱った事業展開を期待しており、本施設が鼠ヶ関地区の特性を活かした魅力的な施設となることを求めている。

そこで、地理的特性から顧客側の「海・魚」というブランドイメージの構築を図ることが不可欠であり、現在の道の駅あつみに不足している鮮魚販売をイメージした実証実験事業により消費者ニーズの把握など評価検証を行い、魅力的な施設となるよう取り組む事業に支援する。

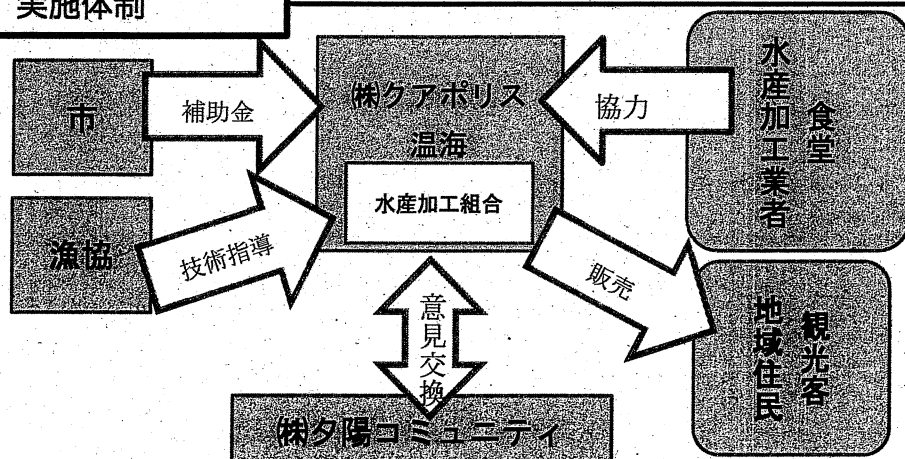
事業イメージ・具体例

○事業実施期間 事業計画において指定する日
平日の売り上げが少ないことから、令和7年度は土日祝日やお盆、ゴールデンウィーク等にターゲットをおき開催
年間 60 日間程度

○事業内容

- ・ 鮮魚及び当該鮮魚の一次加工品（刺身おろし等）の販売実施と評価検証
- ・ 冷凍加工品販売（リキッドフリーザー活用）の実施と評価検証
- ・ 売れ残り品の活用方法の検討
- ・ 水産物販売に関する販売動向分析調査の実施

実施体制



期待される効果

- 「温海の道の駅では新鮮な魚が買える」が定着することにより、新道の駅開業時におけるイメージアップや漁業を取り巻く地域の活性化や漁業関係者の収益向上に繋がる。
- 「漁業のまち鼠ヶ関」の観光客からの認知や、地元住民が地域の良さを最認識するとともに、地元定住の促進が図られる。
- 地元で水揚げされる紅エビ等、これまで難しかった鮮魚の販売を展開することにより、より多くの集客効果を上げると共に他の農林水産物等販売との相乗効果が得られることで、地域農林水産業の活性化が図られる。

事業の目的

温海地域で水揚げされる水産物に対する観光客や市民の需要、販売に向けた課題などを把握し、全国でも有数の水揚げを誇る紅えびの地元消費拡大や、庄内浜水揚げの鮮魚の特性である少量多品目の鮮魚販売、刺身等の一次加工サービス等に取り組むほか、売れ残り品の活用方法の検討、底曳網漁休漁期や冬期間の時化等への対策として年間を通じた販売を実現する。

令和6年度取組内容・状況

●新道の駅での鮮魚販売の可能性を探るため(株)クアポリス温海が行う実証実験事業に対し支援(補助金)。

広告宣伝費	240千円
消耗品費	100千円
アンケート調査費	200千円

●総事業費1,040千円のうち上記540千円を補助。

●この補助金を活用し鮮魚のほか、一次加工品(刺身・寿司・海鮮丼等)の販売を実施中。

●KPI、一日平均売上40千円に対し2回目までの実績で38,276円。

●魚屋「さがなあや」開設

- ①5月31日～6月13日
- ②9月13日～9月24日
- ③11月8日～11月21日
- ④1月24日～2月6日

決算額：540千円

事業評価・課題

【評価】

●遠距離から車で来場する客層では、丸の魚は売れないが見せ魚としての集客効果はあり、店先で足を止め鮮魚が売れなくとも一次加工品にすれば売れる。

●なかでも紅えびをふんだんに盛り付けた「こぼれ寿司」については好評である。

【課題】

●今後も気軽にワンコインで購入しその場で食することのできる商品が必要である。

●休漁期や冬期間の時化による鮮魚不足に対応するため、リキッドフリーザー(急速冷凍機)を活用した商品展開が必要である。

●過去のアンケート調査により顧客の年齢層や来店目的、居住地等は把握できたが、今後はどのような商品がどれくらい売れるのかの販売動向分析調査が必要である。

令和7年度事業内容

●新道の駅での鮮魚販売の可能性を探るため(株)クアポリス温海が行う実証実験事業に対し支援(補助金)。

※実証実験期間
春夏秋冬の年4回 1回につき2週間程度
年間60日程度を予定

広告宣伝費	240千円
消耗品費	100千円
販売動向分析調査費	300千円

●補助事業の最終年度であり、引き続き鮮魚販売等を実施し、「温海の道の駅では新鮮な魚が買える」を定着させ、新道の駅の開業につなげる。

●アンケート調査結果を深掘りし、どのような商品がどれくらい売れるのかの販売動向分析調査を行う。

予算額：540千円

将来の方向性

●新道の駅の地理的特性を生かしてお客様の「海・魚」のブランドイメージの構築を図ることにより、多くの集客効果を上げると共に、他の農林水産物等販売との相乗効果が得られることで、地域農林水産業の活性化が図られる。

温海地域体験旅行推進事業

事業実施年度：H27～ R7年度予算額 2,300 千円

教育旅行×自然体験×着地型観光促進

[補助事業の目的]

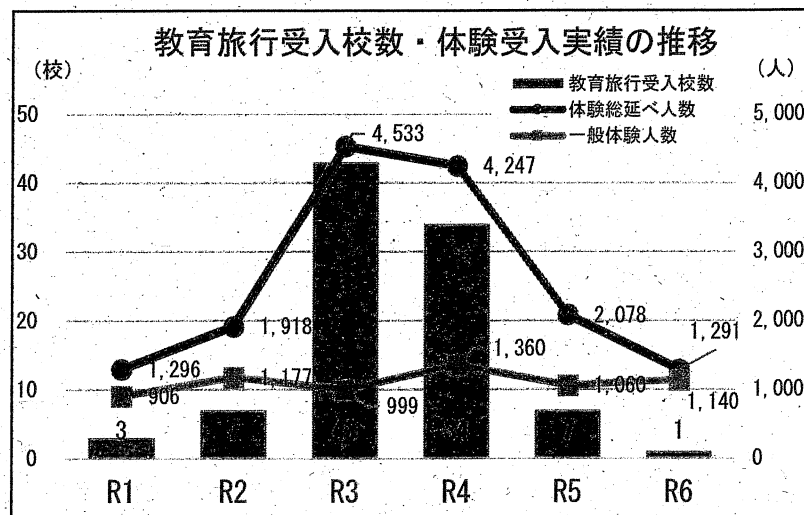
温海地域全体を交流のステージに、教育旅行誘致や自然体験受入れ事業を実施する NPO 法人自然体験温海コーディネットの活動を支援し、着地型観光の推進と持続可能な地域づくりの推進を図る。

[事業内容]

- ① “温海地域ならではの” の豊かな自然（海・山）や、地域の伝承文化を活かした、自然体験メニューの提供・受入れ事業
- ② 教育旅行（SDGs 体験学習型）誘致、受入れ事業

[現状と将来目標] ※右図

- ① 昨年度のコロナ 5 類移行を受け、教育旅行、体験受入数が減少し今年度の教育旅行はわずか 1 校、体験受入数も昨年の 5 割弱に減少。

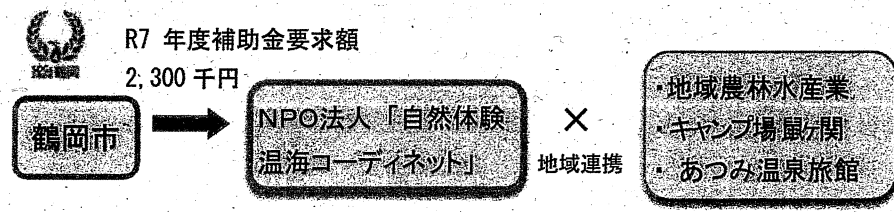


来年度の重点取り組み・事業展開

[地域への誘客と新たな体験受入客の獲得を図る取組み]

- ① 教育旅行及び一般（個人団体）の自然体験受入事業の拡大を図る、魅力あるコンテンツの磨上げと滞在型体験観光メニューの提供。
（あつみ温泉旅館「萬国屋、久遠」と事業提携した温泉宿泊と体験セットの割引）。
- ② キャンプ事業（鼠ヶ関海岸）の受入れ拡大のため、キャンプと自然体験活動を組み合わせた、魅力あるアウトドア事業の展開。
- ③ 温海地域での農林水産業体験学習のメニュー化を進め、旅行代理店と連携した教育旅行の誘致・促進。
（旅行代理店「㈱JTB」より、温海地域での宮城県内中学校 2 年生の野外活動（教育旅行 2 泊 3 日）受入れの打診があり、農林水産業の体験学習を新たにメニュー化し、新規教育旅行の誘致、促進を図る。

資金の流れ



期待される効果

ポストコロナに向けた教育旅行誘致のため、魅力的な旅行体験プログラムを造成し、体験活動の誘致、受入れを行うことにより、地域への経済波及効果を高め、着地型観光の推進と、持続可能な地域づくりに寄与することが期待できる。

事業の目的

温海地域全体を交流のステージに、教育旅行誘致や自然体験受入れ事業を実施するNPO法人自然体験温海コーディネットの活動を支援し、着地型観光の推進と持続可能な地域づくりの推進を図る。

令和6年度取組内容・状況

● 温海地域全体をフィールドに教育体験旅行や自然・文化体験活動の誘致、受入れを行う、NPO法人自然体験温海コーディネットの活動を支援する。

①“温海地域ならではの”豊かな自然（海・山）や、地域の伝承文化を活かした、自然体験メニューの提供・受入れ事業

② 教育旅行（SDGs体験学習型）誘致、受入れ事業

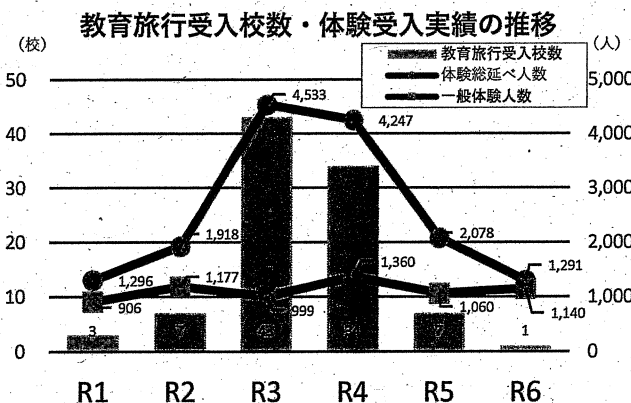
● コロナ禍では、近県及び県内の教育旅行を多数受入れしたが、5類以降は教育旅行が通常に戻ったことから、令和6年度は1校の受入れにとどまった。

決算額：2,400千円

事業評価・課題

● 温海地域の豊かな自然や文化の地域特性を生かし、体験型旅行のニーズの高まりを受け、教育旅行や自然体験活動を通じ、交流人口の拡大を図ることが求められている。

● 事業継続にあたっては、受入れ校数の拡大が必須である。旅行代理店と連携を図り、魅力ある体験コンテンツの磨上げと提供が必須。



令和7年度事業内容

● 温海地域全体をフィールドに教育体験旅行や自然・文化体験活動の誘致、受入れを行う、NPO法人自然体験温海コーディネットの活動を支援する。

〔重点取組〕

①教育旅行及び一般（個人団体）の自然体験受入事業の拡大を図る、魅力あるコンテンツの磨上げと滞在型体験観光メニューの提供。

②鼠ヶ関でのキャンプ事業受入れ拡大のため、キャンプと自然体験活動を組み合わせた、魅力あるアウトドア事業の展開。

③温海地域での農林水産業体験学習のメニュー化と、旅行代理店と連携した新規教育旅行の誘致・促進。

予算額：2,300千円

将来の方向性

ポストコロナに向けた教育旅行誘致のため、魅力的な旅行体験プログラムを造成し、体験活動の誘致、受入れを行うことにより、地域への経済波及効果を高め、着地型観光の推進と、持続可能な地域づくりに寄与することが期待できる。

温海地域在来作物振興事業

実施年度：R元～ R7 年度予算額 1,205 千円

事業概要・目的

温海地域で古くから栽培されている「焼畑あつみかぶ」「越沢三角そば」の安定した生産体制の整備、生産規模の拡大及びブランド化を図るため、生産活動に取り組む団体が行う活動に対し支援を行うもの。

(支援対象の活動)

人材育成、生産技術の向上、品質の確保、文化の継承、市内外でのプロモーション活動、PR 媒体の作成などに関する活動

事業イメージ・具体例

○焼畑あつみかぶ

新たに栽培にチャレンジする組織を支援し、後継者育成を図る。

また、首都圏等でプロモーション活動を行うことで販路拡大を図り「労働力確保支援事業（アグリツアー）」を実施し労働力を確保する。

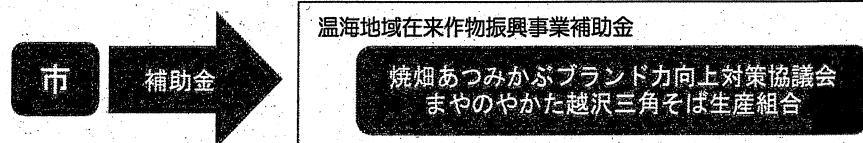
加えて、近年の気候変動や栽培圃場の変化などに対応するため、圃場調査、実証実験などを行い、生産数量の増加・品質の維持を図る。

○越沢三角そば

後継者育成と技術向上、意識向上、組織と生産体制を検討するため、そば打ち講習や栽培などの研修や現地視察などを行い、生産量の増加や品質維持、向上に繋げる。

また、首都圏等でプロモーション活動を行い、首都圏のそば店との取引を行い、新たな販路拡大に繋げていく。

資金の流れ



事業評価

・KPI を達成する等（かぶ：販売単価、そば：作付面積）、当補助事業により着実な成果を上げている。その一方で、活動が続ける中で環境の変化に伴い新しい課題も発生している。

→両作物は温海地域を代表する作物であり、生産量の維持や拡大は収入にも繋がるため、中山間地域で暮らす生きがいがづくり、人口減少の逡減につながるほか、地域への誘客を図る観光・食文化資源でもあるため、継続した支援が必要である。

期待される効果

○焼畑あつみかぶ

生産者の維持・拡大や労働力確保、出荷数量の維持・増加、販路拡大

○越沢三角そば

生産数量の増加や生産者の意識向上、人材育成

☆共通

在来作物文化の継承、温海地域の認知度向上、地域の良さの再認識や収入の確保等による中山間地域で暮らす生きがいがづくりの醸成と人口減少の逡減、市内外の交流・関係人口の増加など

事業の目的

温海地域で古くから栽培されている「焼畑あつみかぶ」「越沢三角そば」の安定した生産体制の整備、生産規模の拡大及びブランド化を図るため、生産活動に取り組む団体が行う活動を支援する

令和6年度取組内容・状況

【焼畑あつみかぶ】

- ・焼畑あつみかぶブランド力向上対策協議会が実施する事業に対し、支援を行った。

＜実施事業＞

- ・栽培チャレンジサポート事業
- ・スギ葉マッチング事業
- ・市内でのプロモーション活動
- ・労働力確保支援事業 他

【越沢三角そば】

- ・まやのやかた越沢三角そば生産組合が実施する事業に対し、支援を行った。

＜実施事業＞

- ・生産者栽培技術研修
- ・そば打ち担い手育成
- ・販促用品の制作
- ・温海地域内及び首都圏でのプロモーション活動

決算額：1,139千円

事業評価・課題

【評価】

- ・当事業により鶴岡市総合計画のKPIを達成するなど成果を挙げている。

(焼畑あつみかぶ：販売単価)

6年度：255円（目標：230円）

(越沢三角そば：作付面積)

6年度：159,470㎡（目標：150,000㎡）

【課題】

○焼畑あつみかぶ

- ・生産者の高齢化と後継者不足
- ・生産数量の減少や品質低下

○越沢三角そば

- ・生産数量や反収の伸び悩みや減少
- ・販路確保及び品質の維持
- ・組合員の高齢化による組合員の減少

令和7年度事業内容

【焼畑あつみかぶ】

- ・焼畑あつみかぶブランド力向上対策協議会が実施する事業を支援する。

＜実施事業＞

- ・栽培チャレンジサポート事業
- ・栽培圃場実証検討事業
- ・市内でのプロモーション活動
- ・労働力確保支援事業 他

【越沢三角そば】

- ・まやのやかた越沢三角そば生産組合が実施する事業に対し、支援を行う。

＜実施事業＞

- ・生産者栽培技術研修
- ・そば打ち担い手育成
- ・販促用品の制作
- ・温海地域内及び首都圏でのプロモーション活動

予算額：1,205千円

将来の方向性

- ・生産を継続できる体制整備が図られることで、生産意欲の維持・拡大、出荷数量（生産数量）や品質の維持・拡大につながる。
- ・収入を得ることにより、中山間での暮らしが維持され、人口減少が軽減される。
- ・在来作物を通したプロモーション活動により、温海地域や本市への来訪を誘導する。

温海地域小ロット農産物生産振興事業

実施年度：H30～ R7年度予算額 261千円

事業概要・目的

○事業概要

温海地域では、小面積農地で季節に応じた少量多品目の農作物（小ロット農産物）が生産されており、自家消費とともに一部は産直にも出荷されている。また、鼠ヶ関IC周辺に令和9年完成予定の「新道の駅」では、地元の農産物等を販売していくことで地域活性化に結び付ける方向も示されていることから、小ロット農産物や在来作物といった特徴的な農産物を「新道の駅」で活かせる生産体制の構築を目指す。

○目的

新道の駅において、地元で生産される小ロット農産物等が安定して販売されていく体制の構築により、地元でお金が循環し、中山間地域に暮らす生産者の生産意欲に結び付け、小ロット農産物の生産振興を図ることを目的とする。

○概要

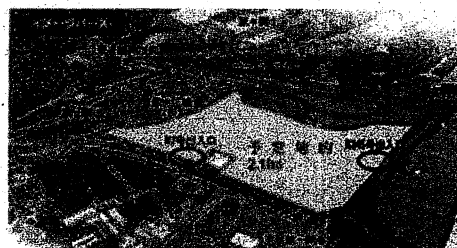
温海地域で活動していた複数の産直組織を一つに統合した組織として、「あつみ旬菜会」が令和4年7月に設立されたが、組織活動が脆弱であり、当該目的の達成に向けてあつみ旬菜会の活動を支援する。

○補助対象者

あつみ旬菜会

○事業期間

「あつみ旬菜会」への支援期間は、鼠ヶ関IC周辺の新道の駅への安定した供給体制が実現するまでとする。



資金の流れ



補助金

あつみ旬菜会

事業イメージ・具体例

あつみ旬菜会（令和4年7月設立）の活動支援

組織活動の円滑化

組織強化活動
(R4～)

- ①他の道の駅等での視察研修
- ②出荷農産物の品質管理研修

地産地消の拡大

- ①6次化加工へ向けた取り組み
- ②道の駅あつみ「しゃりん」で開催される物販イベントへの参加

新道の駅への魅力ある小ロット農産物の提供
～中山間地域の農地を活かす小ロット農産物の生産振興～

温海地域小ロット農産物生産振興事業の事業経過

単位：円

実施事業内容	令和4年度実績		令和5年度実績		令和6年度見込み		令和7年度要求	
	事業費	補助金額	事業費	補助金額	事業費	補助金額	事業費	補助金額
温海地域産直組織活動支援事業								
畑らしい心支援事業	159,794	150,000	201,116	179,815	70,000	0		
産直組織活動支援	155,629	134,000	233,716	162,084	190,000	80,000	230,000	110,000
地産地消の拡大			145,232	142,232	255,000	135,000	295,000	171,000
合計	315,423	284,000	580,064	484,131	515,000	215,000	525,000	281,000

期待される効果

◆鼠ヶ関IC周辺に令和9年完成予定の「新道の駅」で地元の農産物が安定して集荷・販売できる体制を構築することで地元にお金が循環し小ロット農産物の生産地である中山間地域が活性化することが期待される。

◆中山間地域での小ロット農産物の生産振興により中山間地域の小区画農地が活かされることとなるため管理放棄農地のない美しい農山村の景観を維持する事も期待される。



道の駅あつみ「しゃりん」での出店活動

事業の目的

新道の駅において、地元で生産される小ロット農産物等が安定して販売されていく体制の構築により、地元でお金が循環し、中山間地域に暮らす生産者の生産意欲に結び付け、小ロット農産物の生産振興を図る

令和6年度取組内容・状況

温海地域で活動する産直組織「あつみ旬菜会」が行う活動を支援する。

(1) 組織活動の円滑化

- ・他の道の駅等での視察研修の実施
10月 道の駅うご（秋田県）
- ・出荷農産物の品質管理研修の実施
12月 座学研修

(2) 地産地消の拡大

- ・道の駅あつみ「しゃりん」で開催されるイベントへ参加し販売活動を行った。
4月旬菜まつり、山菜まつり

決算額：113千円

事業評価・課題

【評価】

- ・旬菜会の活動を通して、温海地域及び近隣で生産される新鮮で農産物等を消費者に提供し、販売でき、農産物等の生産意欲の向上と地域農業の振興を図ることができた。

【課題】

- ・高齢会員が多く、組織的な活動が円滑に実施できていない

令和7年度事業内容

温海地域で活動する産直組織「あつみ旬菜会」が行う活動を支援する。

- (1) 産直活動強化のための先進地視察・研修
→県内及び県外（新潟） 2回
- (2) 品質管理研修会
→販売品目ごとに実施 3回／年
- (3) 温海地域でこれから販売が期待される栽培強化品目の試験栽培
→からとり芋（在来作物）と里芋の種芋の苗購入及び栽培
- (4) 道の駅あつみしゃりんでの農産物販売イベントの開催
→3回／年
- (5) 商品の魅力や情報を発信する販促関係資料等の作成
→山菜 表示シール・説明パネル作成

予算額：261千円

将来の方向性

- 鼠ヶ関IC（仮称）周辺に計画されている新たな道の駅で、地元の農産物が安定して集荷・販売できる体制を構築され、地元にお金が循環し小ロット農産物の生産地である中山間地域が活性化する。
- 中山間地域での小ロット農産物の生産振興により中山間地域の小区画農地が活かされ、管理放棄農地のない美しい農山村の景観を維持する。

温海地域伝統的工芸品振興事業

実施年度：R4～ R7年度予算額 485千円

事業概要・目的

○目的

- * 古くから地域産業として引き継がれてきた「しな織」の伝統を途絶えさせないために、しな布の織り手や、原材料となる糸生産の後継者育成事業を地域内・外を対象として行い、後継者不足の解消に繋げる。
- * しな織の魅力を広く発信し、需要開拓に取り組む。
- * 首都圏等で開催される展示会・実演会に参加し、販路拡大を目指す。

○概要

羽越しな布振興協議会が、第4次振興計画(R4～R8)の国の認定を受けて実施する伝統的工芸品産業支援事業に対し、市から補助金を交付する。

○補助対象者

羽越しな布振興協議会(温海地域関川地区、新潟県村上市雷地区・山熊田地区で組織)

○対象となる事業

後継者育成事業、技術研修事業、需要開拓事業、振興事業

○事業期間：令和4年度～令和8年度

事業イメージ・取組

【R7年度】

事業名(県)：山形県地場産業等振興事業

事業名(市)：鶴岡市温海地域伝統的工芸品振興事業

[内容]

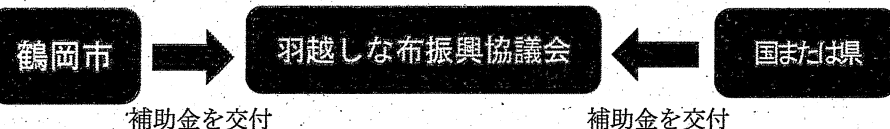
○後継者育成事業(技術研修事業)

糸づくり、しなの木の保育・原材料採取、小中学生の体験学習

○需要開拓事業

PR展示活動、商談会参加、PR用パンフレット印刷

資金の流れ



期待される効果

後継者対策、産地化の推進、産業のブランド化を図るとともに、地域経済の均衡ある発展と地場産業振興のため、切れ目のない補助事業を実施することによって、伝統的工芸品の振興に資することが期待される。

しな織長期研修生⇒1人増 体験研修生⇒40人増

事業の目的

鶴岡市で唯一、国の伝統的工芸品に指定されている「羽越しな布」の振興・保存継承を図り、地域経済の発展に資することを目的とする。

令和6年度取組内容・状況

(1) 後継者育成事業

<技術研修事業>

- ・長期研修（R5～R6）
→受講者1名 全31回実施
- ・しなの木の保育、原材料採取研修
→受講者延べ30名 全3回実施
- ・糸づくり研修
→夜間研修（地域内対象）
受講者延べ63名 全23回実施
→日中研修（地域外対象）
受講者延べ73名 全16回実施

<地域学習事業>

- ・小中学生対象の体験学習実施
（あつみ小学校4年生、温海中学校1年生）

(2) 需要開拓・販路開拓事業

- ・首都圏で開催されたイベントに参加
→ふるさと会津工人まつり2024（福島）
WAZA2024（大阪）

決算額：415千円

事業評価・課題

(1) 評価

- ・2年間の長期研修を経て、織手が1名増員した。
- ・しなの木の保育、原材料採取研修は体験型イベントとして実施したことで、しな織に使われる素材や、その技術について学ぶ機会を創出できた。
- ・販路開拓のため、首都圏等で開催される展示会やイベントに出展し、来場者に対して、しな織の魅力を発信できた。

(2) 課題

- ・従事者の高齢化・離村により、原材料の生産を担う人材が失われ、製品の安定供給ができない状況である。
- ・地域外の方も含めた糸づくりの技術研修会を開催しているが、技術の習得には時間を要するため、中長期的な視点で技術継承者を育成する必要がある。

令和7年度事業内容

(1) 後継者育成事業

<技術研修事業>

- ・しなの木の保育・原材料採取研修
 - ・糸づくり研修
- <地域学習事業>
- ・小中学生等の体験学習実施

(2) 需要開拓・販路開拓事業

- ・首都圏や仙台圏でのPR展示、物産展への出店（大阪万博・ふるさと会津工人まつり等）
- ・PR用パンフレットの印刷

(3) 費用内訳

事業費総額	1,140千円
【収入】県補助金	170千円
市補助金	485千円
協議会負担金	485千円
【支出】後継者育成事業	417千円
需要開拓・販路開拓事業	723千円

予算額：485千円

将来の方向性

- ・産地と連携しながら課題解決に取り組み、羽越しな布を後世に繋げるとともに、持続可能な生産体制の構築を検討する。